

欧州・旧ソ連・アフリカにおける言語翻訳技術の研究開発等の動向調査概要

調査の目的

欧州は、伝統的に多数の国家が存立し、自ずと多言語の使用がコミュニケーションの課題となってきた地域であり、また、単一市場の形成を目指す欧州連合では、常に言語の壁への対応を迫られる事情があり、欧州の言語翻訳技術への関心は非常に大きい。また、U-STARが、ロンドン・オリンピックに向けて2012年6月27日にVoiceTra4U-Mの一般公開をロンドンで発表しており、欧州の動向を把握することが重要となっている。さらに、NICTがU-STARとともに言語翻訳を世界的に展開していく上で、その枠組みを広げる戦略を立てるために、欧州近隣である旧ソ連及びアフリカは有力な候補地となり得る。U-STARでは幾つかの欧州系の言語が対応済であるが、今後、欧州系以外の言語で、旧ソ連及びアフリカにおいて需要が見込まれる言語の動向を把握していく必要がある。

このため、本調査では、欧州における言語翻訳技術の研究開発等の動向として、音声翻訳・テキスト翻訳・音声処理の動向、欧州のプロジェクトの状況、特許翻訳やクラウドソース翻訳の状況等を収集・分析した。また、旧ソ連及びアフリカにおける言語翻訳技術の研究開発等の動向として、音声翻訳・テキスト翻訳・音声処理の動向、言語処理に優れた研究機関の概要、需要のある翻訳の分野、日本語と当該言語との翻訳のニーズ、無線インフラの状況判等を明らかにした。

報告書のポイント

本報告書では、欧州・旧ソ連・アフリカにおける言語翻訳技術の研究開発等の動向を情報収集するために、以下の事項を調査するとともに、アンケート及びヒアリングを実施し、これらの結果を報告書に収録した。

1. 欧州における機械翻訳及び音声技術の研究開発の動向
 - (1) 欧州における機械翻訳技術及び音声技術の利用状況
 - ・ フランスでのアンケート調査
 - (2) 欧州における機械翻訳技術及び音声技術の研究開発動向
 - ・ 欧州連合、英国、フランス、ドイツ、その他の欧州諸国
 - (3) 欧州企業による機械翻訳技術及び音声技術の商用化動向
 - ・ 英国、フランス、ドイツ、その他の欧州諸国
 - (4) その他の動向
 - ・ 欧州における機械翻訳及び音声技術関連の話題となる出来事
 - ・ 欧州特許庁とグーグル社による多言語特許翻訳の動向
 - ・ 欧州におけるクラウドソース翻訳及び翻訳支援技術の研究開発の動向
2. 旧ソ連及びアフリカ諸国における機械翻訳技術の研究開発等の動向
 - (1) 旧ソ連及びアフリカにおける機械翻訳技術及び音声技術の実用化の状況

- ・ オンライン無料機械翻訳・音声技術サービス
 - ・ 機械翻訳・音声技術ソフトウェア
- (2) 旧ソ連及びアフリカ諸国における言語処理に関する優れた研究機関の概要
 - (3) 旧ソ連及びアフリカ諸国の言語処理に関する研究プロジェクト例
 - (4) 旧ソ連及びアフリカ諸国において需要のある言語技術の分野及び日本語との翻訳需要の可能性のある分野
 - (5) 旧ソ連及びアフリカ諸国における無線インフラの状況

調査実施期間

2013年4月～7月

2013年7月31日
NICT 欧州連携センター